



## 参加報告書

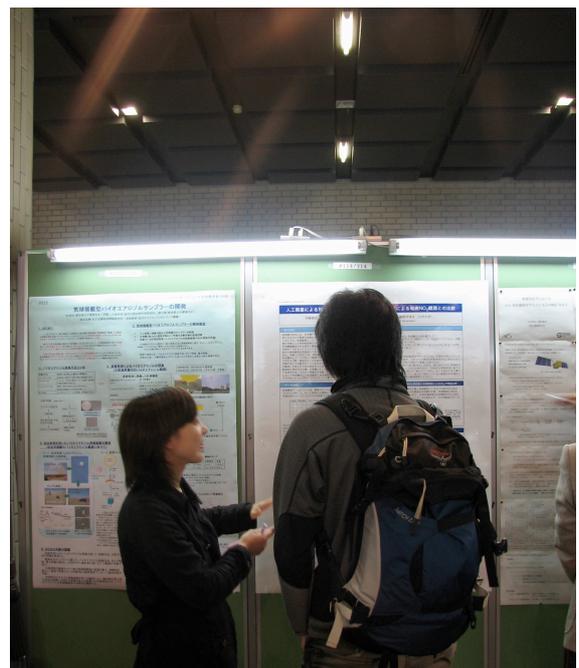
専攻・講座名 情報科学専攻・自然情報学講座  
学年 博士前期課程 1回生  
氏名 伊藤春奈

私は10/14～10/16に北海道大学で開催された日本気象学会2007年度秋季大会に参加しました。『人工衛星による対流圏NO<sub>2</sub>観測と大気環境常時監視局による地表NO<sub>2</sub>観測との比較』という題目で、大会3日目にポスターセッションとして発表しました。

対流圏NO<sub>x</sub>は、対流圏化学においてオゾンの前駆体となるなどの重要な役割を持つ化学種です。日本においては、地表観測として、NO<sub>x</sub>を含む大気汚染物質を対象にした常時監視測定が行われています。一方、対流圏微量成分を全球的に観測できる人工衛星センサが相次いで打ち上げられています。しかし、対流圏微量成分の衛星観測は発展途上であり、その検証が重要です。同学会2006年度秋季大会では、衛星観測データとしてGOMEセンサの対流圏NO<sub>2</sub>気柱量データを使用し、前述した大気環境常時監視測定局による対流圏NO<sub>2</sub>データと比較し検証しました。しかし比較方法に様々な問題点があったため、比較方法の再検討を行った上で、改めてGOMEと地表観測の比較を行い、今回はその結果について発表しました。

発表では、多くの方に興味を持って頂き説明を求められました。自分が疑問に思っていた点に関しては「ここはこれが原因ではないか」といった助言を頂き、また時に厳しい指摘を受け、自分の甘さを感じました。

1時間という短い時間でしたが、有意義な時間を過ごすことができ、今後の研究に生かしていこうと思いました。また自分の研究について他人に説明することの難しさを感じ、研究発表する機会があるときには意識して発表を行い、プレゼンテーション能力を身につけていきたいと思いました。



大会1日目の夜にはオゾン研究連絡会があり、2007年春の光化学スモッグというテーマで2人の先生の講演がありました。光化学スモッグは今年春に九州をはじめ日本各地で例年より早く光化学オキシダント注意報が発令され、社会的な関心を呼びました。そしてまた対流圏オゾンが原因であるため自分の研究に大きく関係しています。この連絡会では日本や東アジアにおける光化学オキシダントの現状、最近の傾向、今春のエピソードに関してお2人の先生から最新の研究内容を聞く事ができ、自分の行っている研究の必要性を実感することができました。

大会中には様々なセッションがありましたが特に2日目の微量気体セッションはどの講演もとても興味深い内容でした。その中でも『高出力 UV-LED を用いた NO<sub>2</sub> 光解離コンバーターの開発とフィールド試験』という題目の講演があり、大変勉強になりました。この講演は私が解析している地表観測局の測定器に関する講演であり、NO<sub>2</sub>をNOに変換するコンバーターの開発を行い、その装置を実際に茨城県内の測定局2局に設置し連続観測し、



その結果についての報告でした。講演自体は主にその新たなコンバーターの測定結果の報告でしたが、それを通して現在の測定機の欠点等を知ることが出来ました。講演後には講演した北先生から直接現在の測定器は他の成分による干渉が小さくないといったお話等も聞くことができ、これからこれらを頭に入れて解析したいと思いました。

大会全体を通して、自分が何のために何故この研究をしているのかを見つめ直すよい機会となりました。今後また学会で発表できるよう研究に精進したいと思います。

魅力ある大学院教育イニシアティブ「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」プログラムも支援により今回の学会に参加させていただき、本当にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。